

## 校長研修だより34

### 教育相談コーディネーター

2021・11・17 重枝 一郎

結論から言うと、来年度より、不登校生徒や事情により別室登校をする生徒などを支援する教員として、「教育相談コーディネーター」の配置をすることにした。単純に一人増員するわけなので、学院としては現状難しいことはわかっていた。しかし、木下事務長の尽力のおかげで、この人的配置の県の補助金がありそうなので配置することができる。

福岡市では、2年前、長期間学校を欠席している生徒や学校に行けず家の中にいる生徒の背景や要因分析、一人一人に寄り添い、社会的自立へつなげるための効果的な支援の在り方を検討するため、「福岡市登校支援対策会議」が設置された。有識者、教育委員会、保護者、そして現場の学校代表（これが私）を構成員として、2年間で10回の調査・会議を経て提言をまとめた。そして、今年度より「教育相談コーディネーター」（従来の不登校対応教員）という名称で、生徒支援のため、管理職、担任等と連携し、支援にあたる役割がつけられた。私たちが作成した「教育相談コーディネーターの手引き」は私の手元にある。いつかそのコピーを先生方に渡し共通実践できるようにしたい。

また、私が学院の理事会で、この役割の配置意義の説明のために用意した資料の一部抜粋して役割等を紹介する。裏面には兵庫県の議会質疑の議事録の記事をのせる。

#### 登校支援が必要な生徒に専任であたる教員について

中高校長 重枝一郎

##### 1 教育相談コーディネーターとは

教育相談コーディネーターは、不登校をはじめとする登校支援が必要な生徒に対する組織的な取組や対応等が、適切に行われているかどうかを点検し、各教員へアドバイスをしたり、保護者や関係機関を交えた話し合いの場を設定したりするなど、コーディネーターの役割を果たす教員。

##### 2 教育相談コーディネーターの配置の意義

- (1) 校内の他の役割の先生方と会議や日常を通して協働し、ステップルーム等でよい生徒支援を行い、不登校の低減や予防につながることを目指す。
- (2) 本校は昨年度、保健室横にステップルーム（学習室）をつくった。ただ、この運営には担当教諭はおらず、多くの場合、養護教諭に負担を強いている。養護教諭には本来的な業務もあり、一メンバーとして関わってもらうことが組織的運営の強化にもつながる。
- (3) 教育相談コーディネーターの支援調整を軸に多くの先生方が共通認識のもと多様な関りをもつことができる。

##### 3 教育相談コーディネーターの役割

- (1) 対象生徒の学力補充、社会性の育成、心の安定のために校内支援体制を構築し、コーディネートをする。
  - ・担任、養護教諭、生徒指導主事、SC等を中心とした校内支援会議への情報提供
  - ・担任等と連携した本人及び保護者への支援の助言
- (2) ステップルームにおいて、教室に入れない生徒及び登校しぶり傾向にある生徒に対し、個に応じた指導・支援を行う。

- ・ ステップルームの運営
  - ・ 対象生徒の支援カードの作成 (本人の状況, 支援状況, 欠席日数, 学習状況等)。
  - ・ 学級担任, 教科担任, 部活動顧問等との連絡・情報交換・連携
  - ・ 場合によっては, 自然体験, 社会体験等の実施
- (3) 対象生徒に関する小中または中高連携
  - (4) 関係機関との連携
  - (5) QU アンケートの活用推進 (いじめ等の未然防止, 早期発見)
  - (6) 生徒支援に関する研修の充実
  - (7) SC と連携しながら保護者, 対象生徒への多面的アプローチ
  - (8) 保護者との面談

あくまでこれは役割の例であって, まずは該当生徒との関係づくりと担任との連携